

Minakami Mirai Marche

ミナカミ・ミライ・マルシェ

水上温泉

廃墟再生ストーリーズ2025

JR水上駅から、道の駅水紀行館まで「10の小さなマルシェ群」を流れのままだに、ゆっくりと。



「廃墟再生マルシェ」から
「ミナカミ・ミライ・マルシェ」へ

水上温泉街で2022年にスタートし、過去3回開催された「廃墟再生マルシェ」は見捨てられかけていた建物の魅力を掘り起こしながら開催してきたマルシェでした。

1回目は、温泉街の最奥に残っていた『旧ひがき寮』を会場に約1,300人が来場。翌年の2回目は、温泉街の真ん中で利根川に面する『旧一葉亭エネルギーセンター』を会場に、2日で約3,000人。2024年の3回目は、『はしづめ』『いっせん』『うしろじ』『まちかど』の4会場を回遊いただくように企画。2日間で約4,500人の方が訪れてくださいました。

そして、今年はその蓄積を生かしつつ、「廃墟再生」から「ミライ」へ成長。10月11日（土）・12日（日）の2日間で、新たに「ミナカミ・ミライ・マルシェ」と題し、温泉街に生まれつつある様々な魅力ある場所が連携したマルシェが開催されました。



流れのままにゆったり楽しむ
スローモビリティ社会実験

今回のマルシェは若干高低差もありながら15キロメートルに渡る10会場。外の風景をゆったりと眺めながら、移動そのものを楽しむ交通手段が提供されました。

来場者は、電気バスやシェアバイクで、まちの風景と利根川の水音を、楽しみながら、廃墟再生の様々なスポットを巡りました。



会場01 Walk On Water

JR水上駅前にて50年以上にわたり、このまちの景観の一部として佇み続けた旧書店跡をリノベーションして2022年オープンした「Walk On Water」。

当日は、台湾夜市をコンセプトにした「水上駅前台湾市場」をマルシェ会場としてデザイン。

小籠包や魯肉飯などの台湾小吃（シャオチー）やタピオカミルクティーなどのフード＆ドリンクに加えて、こどもから大人まで台湾夜市を愉しむ夜市遊戯（ゲーム）も提供されました。台湾ランタンの装飾もあり、みなかみにありながら、友好都市台南市の雰囲気味わえる会場が作り出されました。



会場02 旧蒼海ホテル／湯原橋

数年前まで、廃墟化したホテルが立ちはだかつていた温泉街中心部の北側の入口にあたる場所。廃墟が解体されると、水上峡や谷川岳が望める、絶好のオープンスペースが現れました。

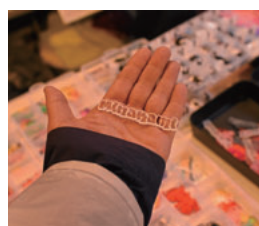
谷川岳と利根川を同時に望む湯原橋の欄干には絶景の「欄干カウンターテーブル」を設置。湯原橋の反対側の橋詰からは、利根川遊歩道に降りていくこともできます。



会場03 旧ランドリー工場

老舗ホテルのランドリー機能を担った建物。かつての水上温泉街には、多くのクリーニング店が存在し、そこには旅館を中心とした仕事のネットワークが確かに存在していました。しかし、時代とともにクリーニング業務は外注されるようになり、ランドリー工場は約20年前に閉鎖されました。以降、建物の大半は物置スペースとなっていました。

2024年秋の廃墟再生マルシェに合わせて、出入口周辺の最小限の一角を整理し、今回もそれぞれのこだわりを持ったお店が出店する会場となりました。



会場04 旧ひがき寮

廃墟再生プロジェクトのアイコンのような存在でもある旧ひがき寮。昨年から「まるごとアトリエプロジェクト」が始まり、アート・ものづくり・クラフト・アップサイクルなどをテーマに拠点づくりが進められています。

旧ひがき寮の一角では、少しずつDIY改修が進められ、今年の5月には照明やトイレも整い、6月には三和土による土間打ちのリベンジに成功。9月には簡単なキッチンも完成しました。

今回の旧ひがき寮は、創り手の方々がお試し入居し、「おためしオープンアトリエ#3 - ハロウィン編 -」と題して、ものづくり体験の提供や作品の展示・販売が行われました。夜にはキャンドルナイトも開催され、幻想的な空間が創出されました。



会場05

旧一葉亭

「旧一葉亭」は現在、産官学金まちづくりの一環で建物を減築し、再生する事業が進められている途中で、現在は躯体が露わになった状態です。当日は、利根川の渓流ぎりぎりに建つ立地や、増築を繰り返した結果生まれた複雑な内部空間、様々な自然風景を切り取る力強い躯体など、再生建築の現場でしか見ることのできない風景が間近で味わえる特別な一日となりました。

今回のマルシェでは、再生過程にあるかつての正面玄関前のスペースを暫定利用し、会場の一つとして開放。安全対策を講じた上で、旧一葉亭内部見学ツアーも行われ、数年後に完成する予定の広場空間をイメージしながら、実験的に活用されました。



会場06

matatabi

水上温泉街の表通りで、この秋に本格開業するマイクロホテル「matatabi」。植物名の由来である英気を養えるという意味だけでなく、まち歩きの拠点となり「また旅に出る場所」として育ててほしいという想いを込めて、「matatabi」と名付けられました。「みなかみでの旅行をより楽しんでもらいたい」「ファンを増やしていきたい」という想いで地域の案内ができる拠点作りを進めていきます。

移住者の方や、これから出店検討されている方々が主役となるmatatabi会場。隣の空地とセットでマルシェが開かれ、みなかみの新しい風を感じる空間が作り出されました。



会場07

OCTONE Brewing

水上温泉街の表通りの真ん中で、源流のまちの水で仕込んだ絶品のクラフトビールを仕込む醸造所「オクトワン・ブルーイング」。併設のタッブルームの軒先はいつも人で賑わい、ある時には畳とこたつが設置され、ある時にはジビエが焼かれていたりします。

そして、この会場のコンセプトは「ゲリラこたつやバーベキューパーティーの拡大版」。気温が下がり、肌寒くなったイベント初日は、来場者が不思議な「モバイルこたつ」に入りながら、クラフトビールやケバブ、ハンバーガーを味わう姿が見られました。

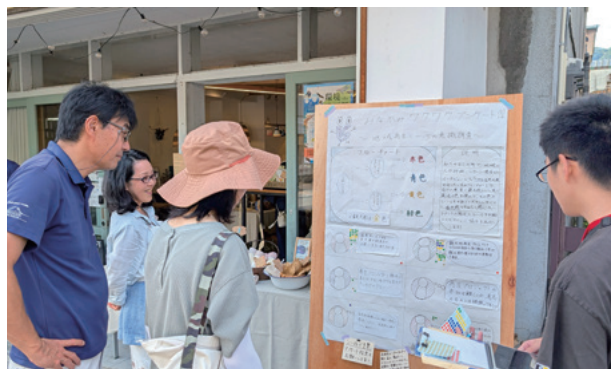
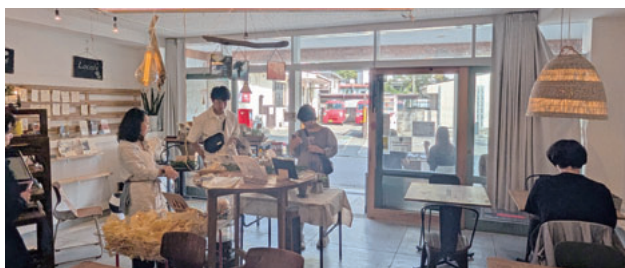


会場08

ゲストハウス & コワーキングほとり

水上温泉リノベーションまちづくり事業で誕生した、リーズナブルに泊まれるドミトリー型の宿泊所。ミニマムな設備で、周辺の日帰り温泉・飲食店と組み合わせることで初めて完成する、温泉街と一体型のゲストハウスです。温泉街を紹介するマップがあったり、ローカルな雑貨小物が紹介されていたり、観光旅行ではわからないような田舎のディープな面白さが伝わってくる店内が特徴です。眺めていて飽きることのないギャラリーを多くの来場者が楽しみました。

今回は、マルシェ期間中に10の会場を巡って合言葉を集めると、MINAKAMI HEART Payポイントがもらえる「水上温泉デジタルスタンプラリー by ことつて」のゴール地点として「ヒト・モノ・コト」の交流を生み出しました。



会場09

MIDORI SOW

温泉街南側エリアの拠点「MIDORI SOW」は廃屋になっていたアパートをリノベーションした複合施設。今回は、隣地の道路用地の一部も社会実験的に活用し「農場の感謝祭」をコンセプトに"つながりを耕すミドリソウ・マルシェ"として新しい温泉街の玄関口が創出されました。

10会場で最大規模となるミドリソウ・マルシェには、シンボルの栗の木におしゃれなブランコを設置。飲食やワークショップなど、魅力的なお店が多数出店し、大人からこどもまで楽しめるアットホームな空間が提供されました。



会場10

道の駅水紀行館

ウォーターアクティビティや観光客の集客拠点でもある、道の駅水紀行館。近年は「かわまちづくり」事業を進め、道の駅と河川空間が一体的に整備され、もっともっと利根川に近づきやすくなりました。今回は、電気バスモビリティの発着所としても活用し、温泉街とセットで楽しめる道の駅を多くの家族連れが訪れました。

10月11日から「ミナカミ・ミライ・マルシェ」と同日にスタートした「MINAKAMI LIGHT FESTIVAL 2025」。道の駅水紀行館から、温泉街へと幻想的な光のアートが広がり、みなかみの自然と人が優しい光で結ばれる、秋の夜となりました。

